

令和7年度 第4回 浜松中部学園学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月10日（火） 14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 浜松中部学園 会議室
- 3 出席委員 村井 秀行、桐井 晶、馬淵 吉晴、 富田 昌和、鳥居 浩幸、三浦 一哲
森川 誉進、三ツ井 りか、鈴木 康子
- 4 欠席委員 鈴木 秀夫、広瀬 恵子
- 5 学 校 岡本 雅康（校長）、星宮 ちさと（教頭）、杉山 貴和（教頭）
影山 直巳（主幹教諭）、仁尾 且樹（生徒指導）
井上 佐矢子（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 井上 佐矢子
- 8 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、桐井委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 9 協議事項
 - （1）学校関係者評価について
 - （2）いじめ防止等のための基本方針
 - （3）令和8年度 学校運営基本方針の説明
 - （4）放課後児童会との連携
 - （5）運営協議会の自己評価について
- 10 会議記録
司会から委員総数11人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
 - （1）学校関係者評価について
 - ・地域に親しむように自治会でもがんばっていきたい。（森川委員）
 - ・どの項目も年齢が上がっていくことにつれて数値が下がっていくことが心配である。いじめに対する知識や理解はあるが、雰囲気があるという面では、わかっても流されてしまうということである。健康維持のために体を動かしている保護者の評価が低いことが気になる。情報

教育は値がよい。地域の行事への参加の有無については、家庭での考え方に差がある。地域が参加しやすい仕掛けを作っていかなければいけない（富田委員）。

- ・ 夢や希望がある子供が多いことは素晴らしい。小中学校の段階で目標があることは素晴らしい。（馬淵委員）
- ・ いじめを許さない雰囲気がある…いじめがあるのに容認したり見て見ぬふりをしているのではないかという点で心配になる。（三井委員）
- ・ 夢や目標があることが素晴らしい。年齢が上がるにつれて、現実を見てそう思えないこともあるのではないか。いじめを許さない雰囲気…自分が関わったら自分のところに来るのではないかと心配している子がいるのではないか。（鈴木康子委員）
- ・ 本当に大丈夫かなと心配になって低くしてしまう、親の気持ちはわかる。昔に比べて地域の行事が減っている。子供たちが興味をもってもらえるように仕掛けを学校でもしてもらい、住んでいる町のことを知ってもらえればよいのでは。（鳥居委員）
- ・ 地域の行事の参加…昔から住んでいる人は積極的だがマンションの方々は希薄になりがち。そんなところも影響しているのではないか。夢や目標があるということはキッズチャレンジビジネスの手伝いをしている身としてはうれしい。中学生は現実を見て低下してしまうのではないかという思いはある。あきらめるのはもう少し先でもよいのではないか。（三浦委員）
- ・ 目標が高学年になるにつれて低下してしまうのは、さみしい。あいさつは他校と比べてもあまり差がない。これくらいでよいのでは。知らない人に対しては挨拶がしにくいという面はある。地域連携、祭りの参加者は多い。その他の行事は年配者の集まりはあるが、子供会の活動などはやりにくいという現状がある。子供ボランティアを通じた教育をすることが必要。中部協働センターの夏祭り等のボランティアの参加者2名。八幡中は20数名。この差がこのような場でも出てくるのではないかと感じている。（村井委員）
- ・ 設問数が多く、吟味をしていくことが難しい。目標値の設定と評価をどうしていくかが難しいのではないか。いじめを絶対に許さないという雰囲気がある…雰囲気とはなにか。いじめは許さない雰囲気を作るためにはどのようにすべきか、何をしたらよいのかを考えたい。

（桐井委員）

- ・ いじめを許さない雰囲気がある。実態を見て数字が下がっているのではないか。いじめがあったのではないかと感じてしまう。（村井委員）
- ・ 大丈夫だという人が88%それ以外の子供たち10数%の子供たちは解決できていないのではないか。新しく入ってきた人たちには地域の組織に入るためのハードルが高いのではないか。自治会参加率が下がっている。自治会を維持していくためには、新しくきた方たちをどのように取り込んでいくか、ハードルを下げられるか、自治会側が考えるべき。他町の子供会の活動はどれくらい参加しているか。（富田委員）
- ・ この内容については、また別の機会に（議長）

(2) いじめ防止等のための基本方針

・ 仁尾生徒指導主事の説明

子供たちの評価が少し低い、悔しい思いをした。三要件、四層構造。子供と教員、保護者それぞれの「いじめ」の認識のずれがあるのではないかと。被害者が精神的な苦痛があればいじめの認定。ちょっとからかっただけなのに、と当事者が感じていても、それを見た他児童が、「いじめ」ととらえたのではないかと。来年度、小学生にもいじめの三要件を伝え、改善しようと考えている。いじめが全て解決するとは限らないという統計があるので、解決できていない児童生徒がいるのかもしれない。大人の力を借りずに解決できている場合もあるかもしれない。先生の力を借りずに、相談ができず、我慢して耐えている子もいるかもしれない。

学校の取り組み：学期初めに、全職員で共有している。重大化を防ぐために、初期対応（組織的、記録を残す）に力を入れている。中等部では、毎週1回、初等部は月1回。中等部34件のいじめ（74件）初等部823件（520件）。第3回いじめアンケートを実施中。丁寧に対応をしている。子供たち同士、教員同士の人間関係作りに努めている。内容はひやかしゃからかい、軽い暴力（ぶつかる、肩をたたかれる）ネット（勝手に動画を流された等）警察に協力を求めたり、専門機関と連携したりしながら解決をしている。きっかけは、児童生徒からの情報、家庭との情報など。いじめの早期発見。再発防止、前向きな気持ちで生活ができるように指導をしている。地域や家庭に協力をしていただきながら、健やかな成長に向けて取り組んでいきたい。

- ・ 絶対に許さない雰囲気100%であれば素晴らしいが、「あなた背が高いね」と言われて、褒められたとしてもコンプレックスに感じている人がいたら、それはいじめになってしまうことを考えると仕方がないかなとも思う。（馬淵委員）
- ・ どれくらいの頻度でいじめアンケートをしているのか？件数の多さに驚いた。その前は1000件を超えていることに驚いた。（桐井委員）
- ・ 他の学校は、3桁にいくことはあまりない。裏を返すと、細かいところまで、認知している。見逃さないという姿勢を徹底している。〇〇君からこんなことを言われてしまった。これでいいのという気持ちはある。女の子に振られもいじめ。いじめ対策委員会にかけながら、併せて柔軟に対応をしている。記録はしっかりと取っている。小学校で丁寧に積み重ねて対応し続けていくことで中学生ではとても少ない。（校長）
- ・ いじめの対応がこんなに丁寧になったのはいつからか？数字が多いことに気になった。体罰アンケートの開封に立ち会ったことはあった。体罰とは言えないものもあった。（村井委員）
- ・ パソコンによる相談ができるようになったことは大きい。口頭での相談は勇気がある。今様だが、効果があるのではないかと。いじめを出さない雰囲気の中にいじめを出さない環境、見逃さない姿勢が、空気感が子供たちにも伝わって行くことよいかと思う。（桐井委員）

(3) 令和8年度 学校運営基本方針の説明（校長）

学校関係者評価で、おおむね良好な結果が得られた。そのため、学校経営方針に大きな変更はしない。変更点のみ紹介。子供の実態として、個々では善悪の判断ができるが、集団の雰囲気に流されてしまう子供が少なくない。

- 8（1）エ：個に応じた支援体制の構築
 - 「ゆうゆう教室」学習に課題のある子供たちを取り出し
 - 「さんさん教室（校内学びの教室）」不登校、教室に入れない子供のための居場所が、新年度からできる。浜松市の取り組みとして、中学校を中心に不登校児の居場所を作るための体制を整えている。
- 8（3）イ：清掃活動を通して、校内環境と感謝の心を高める。
- グランドデザイン…たくましい心身の項目を入れ替えた。
 - ・ 2（1）集団の雰囲気流される子供が多いという言葉があったのは、昔から多かった。掃除の回数は少ないのではないか。掃除を通して環境整備や感謝の心を大切にしてもらいたい。（村井委員）
 - ・ 個に応じた支援体制の構築について現在はあるのか？（桐井委員）
 - ・ 今年もすでにあるが、「さんさん教室」はあるが支援員が半日のみ。1日見てくれる人がつく形で、「校内まなびの教室」を新設する予定。（校長）
 - ・ 支援員は半日の勤務。勤務時間が決まっているため、教員もついて午後をカバーする。（教頭）
 - ・ より手厚い指導ができる。（校長）
 - ・ 校外まなびの教室とは？（森川委員）
 - ・ 例えば、青少年の家の「ふれあい教室」など浜松市の委託を受けて開催している。（校長）

（4）放課後児童会との連携

- 下校時刻、体調不良、学級閉鎖等についてさくら連絡網や電話等で連絡報告をしている。
- いじめやけが等、放課後児童会での出来事についても情報を共有して対応している。
- 放課後児童会との情報共有をする場合は、保護者の同意を得てから。
- 避難訓練場所の際には、学校を利用している。
- 学校運営協議委員のうち複数名が放課後児童会運営協議会委員を兼ねている。
 - ・ 昨年1月に公表された放課後児童会運営指針、それに基づいた4月発行の解説書が発行された。放課後児童会運営協議会委員として放課後児童会の支援員の思いを伝えたい。
 - ・ 時には、場合により体育館を貸して欲しいという意見がある。元城小時代は、自由に使うことができた。
 - ・ ボール遊びのときにボールが外に出て駐車場の車を破損してしまったことがあった。ネットを高くしてもらいたいと訴えたが、対応してもらえなかった。
 - ・ 放課後児童会運営協議会が年2回開催、2月19日に開催予定。学校からも出席する。
 - ・ 子供が具合が悪くなったときに、休める場所がない。常にカーテンをひくようになっているが、休める場所ではない。支援員の休憩室もない。教育委員会にお願いしている。（村井委員）
 - ・ 学校運営委員会でも言っているが、対応してもらえていない。何年かけても具体化されない。どうしたらよいのか？教育委員会に予算立てしてもらえるように学校からも伝えてほしい。（桐井委員）

(5) 運営協議会の自己評価について

- ・項目1～3については、とてもよいといえる。
項目4の次年度の目標については、提案通りでよいか。個別に意見があれば、また教頭へ伝えるということかどうか。(桐井委員)
- ・評価項目2, 3は同数なので、できたとよくできたなら、どちらかに決めたほうがよいのではないか。(富田委員)
- ・文章で残していく。(教頭)
- ・学校でまとめて教育委員会に出す必要がある。同数のところは、どのようにはまとめるかは学校と一部の委員でまとめるというかたちでどうか。(村井委員)
- ・評価項目をまとめて会長報告、ご指導をいただいたものを、教育委員会へ提出する。(教頭)

7 報告

(1) 部活動地域展開の現状について(星宮)

2学期末の三者面談で休日部活動地域展開に関する動画を視聴する機会を設けた。興味をもった部活動について質問等ができるようにメールアドレス一覧を用意した。サッカー部については、立ち上げに向けて話し合いを進めている。サッカー部のアドレスが揃い次第、保護者へ公表する。各部も協力をいただける保護者を交えて準備を進めている。

(2) 夢育やらまいかCS加算分の報告(杉山)

地域に愛着をもって取り組む活動…今後 6年生の芝桜の植え替え
キッズチャレンジビジネスに関するもの

(校長より)

- ・法的義務として、業務量管理、健康確保措置(R9年度には)を基本方針に位置づけるように求められている
→地域の方々の力をお借りする場面が増えていくのではないかとと思われる。
- ・来年度は本校10周年
→航空写真、学芸高校書道部へパフォーマンスを依頼中
様々な行事に10周年記念を付けて、意識づけを図る。
- ・二宮金次郎像設置の打診(浦川小で使用していたもの)
→検討して、次年度回答をする。地域の皆様のお考えを次年度いただけるとありがたい
- ・議事録は郵送し、許可をいただけたら掲載する。
- ・来年度、肩書などが変わる場合は机上の紙面へ
- ・24日のCS研修会、資料が届き次第郵送する。
- ・次年度、第1回学校運営協議会を5月中旬。詳細は4月に連絡する。